

**注意点1**



右手

**ピックを弦に埋め込む感覚で  
ダウンを弾こう!**

このメイン・フレーズは、すべてダウン・ピッキングになっている。このようなりフでのダウン・ピッキングでは、ピックが弦の下に潜り込むように斜め気味に弾くことが大切だ(図1-a)。ピックを弦に埋め込む感覚で弾き、結果として低音弦が指板のフレットに打ち付けられるようになれば良いだろう。こういう弾き方をすることで、コンプレッサーの掛かったようなドンシャリ・サウンドを生み出すことができるのだ。またダウン・ピッキング後は、直線的な軌道で戻るように心掛けよう(図1-b)。こうすることで動きが無駄が少なくなり、素早いダウンの連打を行なうことができる。

図1-a ダウン・ピッキングの角度

- 角度を付けて、ピックを弦に埋め込む感じで。
- ✕ ピックを指板に対して平行に下ろすのはNG



図1-b ダウン・ピッキングの戻りの軌道

- 弾いた弦に当たらない程度に直線的な軌道で。
- ✕ 大きな軌道では、無駄が多い。



**注意点2**

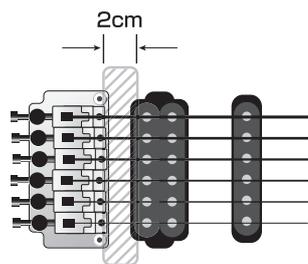


右手

**重低音を生み出す重要技  
ブリッジ・ミュート**

メイン・フレーズのようなパワフルなヘヴィ・リフを演奏するためには、ブリッジ・ミュートをマスターする必要がある。ブリッジ・ミュートは、右手の手刀部分でブリッジ付近の弦に軽く触れて行なうが(図2&写真①)、弦に触れる力加減によってサウンドが大きく変わってしまうので注意しよう。ブリッジ・ミュートの力加減は、弱いと低音に締まりがなくなり、強いとアタック音だけしか聴こえなくなる。したがって、その中間ぐらいの力加減を目指すが良い。ダウンで弾いた時に、低音とアタック音の両方を兼ね備えた“ズン!”というような力強いサウンドを生み出せるように、ブリッジ・ミュートの力加減を研究してみよう。

図2 ミュートの位置



ブリッジから2cm付近までに触れる。



① 右手の手刀部分を使って、ミュートを行なう。音抜けの良いサウンドを生み出すために、力加減を研究せよ!

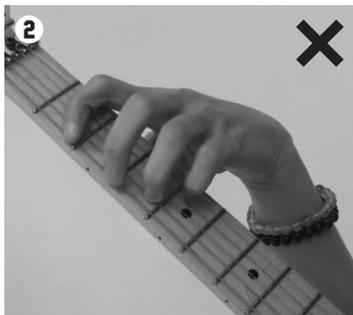
**注意点3**



左手

**人差し指&小指を使って  
パワー・コードを押さえよう!**

パワー・コード【註】はメタル・リフでよく使用するので、激しいポジション移動でも押弦フォームが崩れない押さえ方をマスターしておく必要がある。押さえ方は、人差し指&薬指のフォーム(写真②)と人差し指&小指のフォーム(写真③)があるが、著者は後者をオススメしたい。前者は薬指と小指に余計な力が入りやすいので、薬指が押さえている弦を下方方向に引っ張ってしまい、さらに余弦のミュートもしづらいのだ。一方、後者は中指&薬指を使って6弦を、小指&人差し指の付け根を使って高音弦をミュートできる。さらに力まずに押弦できるので、ポジション移動もスムーズに行なえるだろう。



② ビギナーに多い人差し指&薬指のフォーム。ノイズ対策がしづらく、余計な力も入りやすいので安定性に欠ける。



③ 人差し指&薬指のフォーム。余弦のミュートがしやすく、ポジション移動もスムーズに行なえるのでオススメだ。

【パワー・コード】ルート音と5th音のみを押さえる簡略コード。メジャーとマイナーを決定する3rd音を抜いているためコード感は薄れるが、パワフルなサウンドを生み出すことができる。